

令和 7 年度（令和 6 年度分）

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和 7 年 9 月

山鹿市教育委員会

- 目 次 -

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1～2
	(1) 点検及び評価の趣旨	
	(2) 点検及び評価の対象	
	(3) 点検及び評価の方法	
	(4) 総合評価の方法	
	(5) 成果指標の目標値	
	(6) 山鹿市教育委員会名簿	
2	施策の体系（第4次山鹿市教育振興基本計画体系図）・・・・・・・・	3
3	施策評価調書	
	【基本方針】「ひと輝く」・・・・・・・・・・・・・・・・	4～10
	【基本施策】「きずな結ぶ」・・・・・・・・・・・・・・・・	11～17
	【基本施策】「みらい彩る」・・・・・・・・・・・・・・・・	18～19
4	教育委員会の主な活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・	20～21
5	教育委員会事務局の組織及び事務分掌・・・・・・・・	22～23

1 はじめに

(1) 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)の一部が改正され、教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

この報告書は、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、本市教育委員会が行った主な施策・事業の実績について点検・評価としてまとめたものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検及び評価の対象

令和7年度に点検及び評価を行う事業は、第4次山鹿市教育振興基本計画の基本方針に基づき山鹿市教育委員会が実施した主な取組施策16事業としました。

(3) 点検及び評価の方法

- ア 教育委員会が取組む施策の体系ごとに、各事務事業担当課が「施策評価調書」を作成し、具体的な事業指標を用いながら、客観的な視点から評価及び課題の分析を行い、今後の事業に活かすものとします。
- イ 各事務事業担当課が作成した「施策評価調書」について、学識経験等を有するもので構成する山鹿市教育基本計画推進委員の意見を聴取したうえで、教育委員会において点検及び評価を行います。
- ウ 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を山鹿市議会へ提出します。また、報告書は市ホームページで公表するものとします。

(4) 総合評価の方法

以下の評価基準に基づいて評価しました。(主な施策取組み内容及び成果ならびに成果指標達成率を総合的に判断し、下記の評価区分により評価を行う。)

評価区分	評価基準	評価結果に基づく改善等の考え方
A	目標を達成できた。 または十分な成果を得ている。	・現状どおり事業継続(拡充を含む。)していく。 ・当初の目的を達成し、事業が完了した。
B	概ね満足な成果を得ている。または目標達成に向けて進んでいる。	・概ね目標は達成できているが、必要に応じて事業内容等の見直しを検討する。
C	ある程度の成果を得ている。または目標達成に向けて多少の成果を上げている。	・目標達成に向けて、事業規模・内容等の改善検討が必要。
D	満足のいく成果は得られなかった。または目標の達成は困難である。	・事業実施の効果が薄い。 ・実施方法等の抜本的な見直しが求められる。

(5) 成果指標の目標値

第4次山鹿市教育振興基本計画については、山鹿市総合計画との整合性及び施策や事業の統一性を図るため、1年間延長し、その成果指標を令和7年度の目標値として見直していますが、令和6年度までの達成率は、変更前の令和6年度の目標値に基づき表記しています。

(6) 山鹿市教育委員会名簿 (令和7年4月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教育長	堀田 浩一郎	R 5. 4. 1 ~ R 8. 3.31
委員 (教育長職務代理者)	野中 米里	R 5. 4. 1 ~ R 9. 3.31
委員	野口 法子	R 4. 4. 1 ~ R 8. 3.31
委員	立山 和宏	R 7. 4. 1 ~ R 11. 3.31
委員	芹川 博己	R 6. 4. 1 ~ R10. 3.31

2 施策の体系(第4次山鹿市教育振興基本計画体系図)

教育大綱で示す3つの基本方針について、基本目標を定め、目標ごとに取り組むべき主な16の施策を掲げています。なお、目標に対して施策が重複する場合は、再掲と表示しています。

基本方針	基本目標	主な取組施策	
基本方針 「ひと輝く」 受け継がれてきた、かけがえのない「命」を輝かせる教育を目指します。	自他の命を大切にする教育の推進	- 1	子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実
	確かな学力と健やかな体の育成	- 2	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進
		- 3	情報教育の推進
		- 4	生涯スポーツの振興
		- 5	「ハンドボールの街やまが」の推進
		- 6	学校施設の整備・充実
		- 7	社会体育施設環境の充実
	多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成	- 8	学校規模の適正化
		(再掲) - 1	子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実
基本方針 「きずな結ぶ」 学びを支え、学びを軸につながりを広げる生涯学習の向上を目指します。	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進	- 1	子どもたちの郷土愛と誇りを育む
		- 2	文化財の保存と活用
		- 3	博物館展示等の充実
	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実	- 4	生涯学習の推進
		- 5	文化団体の育成支援
		- 6	読書活動の推進
		- 7	公民館活動の推進
基本方針 「みらい彩る」 広い視野を持って、主体的に行動する人材の育成を目指します。	社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成	- 1	山鹿創生塾
		(再掲) - 2	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進
		(再掲) - 3	情報教育の推進
	SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた行動を起こす力の育成	(再掲) - 2	生きる力を育む質の高い授業づくりの推進
		(再掲) - 1	山鹿創生塾
	豊かなコミュニケーション能力の育成	- 2	国際理解教育の充実
		(再掲) - 6	読書活動の推進

3 施策評価調査

施策評価調査

施策評価調査			担当 部課	教育部	学校教育課
基本方針	ひと輝く	基本目標	自他の命を大切に教育の推進		
			多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成		
施 策 名	- 1 子ども一人ひとりへのきめ細かな支援の充実				
施策の目的	子どもの居場所を確保するとともに、様々な課題を抱える子どもたち一人一人の教育的ニーズに対して、適切な支援を丁寧かつ継続的に行うことで、不登校やいじめがゼロに近づき、障がいの有無に左右されず全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備する。				

1 事業の取組状況

【事業名】不登校対策事業

取組内容	不登校の児童生徒や登校渋りがある児童生徒に対して、市教育支援センター（山鹿教室・鹿北教室・鹿本教室）を設置し、児童生徒一人一人の状況に応じた適切な指導や学習支援を行った。また、学校、関係機関との連携を図るとともに、家庭訪問を実施した。 中学校全校にサポートティーチャーを配置し、授業や学校生活において個別支援を行い、不登校の未然防止を図った。	成果	本事業は「誰一人取り残さない取組」である。では、学校、家庭と連携を図りながら個に応じた丁寧な支援を行い、不登校傾向の児童生徒の大切な居場所となっている。また、センターでの様々な体験活動や自然にふれあえる施設での集団活動等によって、学習や登校意欲の高まりにつながっている。では、配慮を要する児童生徒のニーズに応じた支援や悩みの相談等、様々な関わりで目標達成の喜びを味わわせるなどして、自己有用感の向上につなげ
課題及び今後の展開	不登校の児童生徒は年々増加するとともに、多様な状況を伴うようになっている。本人や家庭、学校と連携して児童生徒のニーズを丁寧に確認し、個に応じた細やかな対応に努める。また、学校や家庭への送迎が増えている中で、よりよい支援のために送迎方法等の工夫や各学校の状況に応じた校内教育支援センターの設置など、支援体制の充実を図る必要がある。		

【事業名】特別支援教育充実事業

取組内容	合理的配慮協力員（会計年度任用職員）を3名配置し、県の巡回相談事業と併せて、巡回相談を実施した。山鹿市内の幼稚園、保育園、小中学校を訪問し、状況に応じた支援・指導を行った。 通常学級に在籍する障がいのある児童生徒や、特別支援学級に在籍する児童生徒に対してサポートティーチャーを配置し、担当教諭と協議しながら個々の状況に応じた支援を行った。	成果	では、支援が必要な児童生徒のアセスメントや合理的配慮の提供について、市全体で事前協議を行ったことで、よりニーズに応じた支援につながった。では、ケース会議等で、担任やサポートティーチャーの支援体制について協議し個々の状況に対応したことで、円滑な支援ができた。さらに、通級や通常学級におけるインクルーシブ教育の視点を持った授業改善につながってきた。
課題及び今後の展開	各学校における支援会議において、本人や保護者の将来に向けての思いや意向を踏まえた支援計画の作成と支援の実施、移行支援シートの活用を効果的に進める必要がある。また、校内、校種間での確実なアセスメントと情報共有、引継ぎを行い、巡回相談、学校訪問等で移行支援シートの活用を助言し、関係機関との連携を深めていく。		

【事業名】スクールソーシャルワーカー配置事業

取組内容	精神保健福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめや不登校といった問題を抱える児童生徒に対する心のケアのみならず、学校、家庭、関係機関との連携を密にし児童生徒を取り巻く環境の改善に総合的に取り組んだ。また、ケース会議への参加や校内研修等で教職員の支援を行った。	成果	各学校における児童生徒を取り巻く環境や必要な配慮に対して、ケース会議等を通じた具体的な手立てを整理し、家庭と学校や関係専門機関とをつなぐことができた。さらに、スクールカウンセラー、教育支援センターなどの連携会議を定期的開催できた。これらのことにより、情報共有とより効果的な対策の検討ができ、児童生徒が安心・安全に過ごせる環境を整えることにつながった。
課題及び今後の展開	心のケアを必要とする児童生徒や家庭支援の必要がある件数の増加とともに、スクールソーシャルワーカーの人員不足により、業務の負担が増えている。予防的な取組につながる日常的なケース会議の実施による負担軽減を図り、スクールカウンセラーや教育支援センターとの連携強化に努める。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
				(/)		(/)		(/)		
1	不登校児童生徒数（100日以上欠席） 病気、経済的理由を除く	人	25	24.0%	41	14.6%	45	13.3%	6	30
2	学校は楽しいと感じる児童生徒の割合 熊本県公立学校「心のアンケート」調査結果	%	小93.5% 中89.6%	93.4%	小94.3% 中86.2%	92.1%	小94.7% 中89.7%	94.1%	98.0	98.0

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	各学校や支援センター等における支援員の配置、学校や外部機関、関係課との連携等により児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな支援が着実な成果につながっている。不登校の要因は多様化・複雑化し、不登校の児童生徒数が年々増えているが、県の不登校児童生徒の割合と比較すると本市の割合は半数程度である。また、学校を楽しいと感じる児童生徒の割合は高い数値で微増している。今後も、現在の取組を粘り強く継続しながら改善を図るとともに、様々な関係機関と連携しながら、児童生徒、家庭とのつながりを深めていく必要がある。さらに、様々な居場所づくりを学校内外で推進していく必要がある。
------	---	---

施策評価調書

担当 部課	教育部	学校教育課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
	みらい彩る		社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
			S D G s(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成
施 策 名	- 2 生きる力を育む質の高い授業づくりの推進		
施策の目的	次世代を担う子どもたちが、予測困難な社会の中でも夢や学ぶ意欲をもち、課題に対して主体的に考え、他者と協働しながら粘り強く解決に向かっていく力を育成する。		

1 事業の取組状況

【事業名】学校教育推進事業

取組内容	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「学び合い」と「まとめ」を大切に授業の充実を掲げ、授業づくりについて学校教育指導室全体で方向性を揃えて指導や助言を行った。 校務改革、授業改革の推進を図るために、教職員を対象に役職・経験年数・教科ごとの研修、幼保小中が連携した研修を実施した。また、学校の課題を全職員で共有し、同じ方向性で取り組むように指導、助言を行った。 学校や教職員の実態に応じ、タブレット端末が授業の中で「効果的に使われているか」を再度検証し、学校訪問や研修で助言を行った。	成果	すべての学校において、「主体的・対話的で深い学び」を追究した校内研究が行われ、児童生徒の主体的な学びについて授業改善に取り組むことができた。 校務分掌に応じた研修で、他課や県の教育機関の講師等を活用したことで、新たな知見を得ることにつながった。研修において、互いに意見交換する場を多く設けるよう助言したことで、教職員の主体性を促し、O J T(オンジョブトレーニング：学校で業務を行いながら学ぶこと)の充実につなげることができた。 各学校の校内研修等においてI C Tの活用に関する共有化を図り、初任者、ベテランを問わずI C Tを活用した授業実践が行われるようになった。I C Tの効果的な活用による深い学びを実感している児童生徒も増加した。
	課題及び今後の展開		「山鹿市学校教育指導の重点」をもとに、各学校において継続した取組がなされている。しかしながら、授業や家庭学習等において、児童生徒の主体的な学びにつながる授業改善、校務改革が更に必要である。今後、本市の小中学校の現状に応じた課題を絞って教育指導の重点を示すとともに、各学校における取組が焦点化され、深化できるように、学校訪問や日常的な助言を充実させる必要がある。また、I C Tの利活用について、さらに授業改革につなげる必要がある。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	熊本県学力学習状況調査平均正解率を上回る学校の割合(小学校：国語・算数、中学校：国語・数学・英語)	%	83.0	90.2%	81	88.0%	77.7	84.5%	92.0	92.0
2	「主体的・対話的で深い学び」の中で自ら課題を解決できていると答えた児童生徒の割合	%	92.3	102.6%	98.1	109.0%	89.3	99.2%	90.0	98.0
3	I C Tの効果的な活用により深い学びを実現していると答えた児童生徒の割合	%	92.2	102.4%	90	100.0%	91.5	101.7%	90.0	90.0

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 各学校が「誰一人取り残さない教育」を目指し、学力調査結果の分析に基づいた個に応じた指導と主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる。しかしながら、児童生徒の主体性に関わる部分では下降傾向であった。今後の重点的な取組が必要となる。
------	--

施策評価調書

担当 部課	教育部	学校教育課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
	みらい彩る		社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成
施 策 名	- 3 情報教育の推進		
施策の目的	新学習指導要領の着実な実施に加え、ICT機器の活用による教育の情報化を通して、児童生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら主体的に学ぶ姿勢を育成する。		

1 事業の内容と成果等

【事業名】教育情報化推進事業

取組内容	学校の課題解決を図るため、学校教育指導室及びICT支援員による支援訪問を積極的に行い、教師の指導力向上に向けた指導や助言を行った。 山鹿市全体で授業の質の向上に努めるため、校長会議を中心に、山鹿の教育課題を明確にし共通実践を図った。 タブレットを有効活用するために、教職員のニーズに合った研修を行った。 山鹿市の全ての学校で、学校情報化認定優良校を目指して取り組んだ。	成果	ICT支援員の定期的な支援により、教師のICT利活用が促進され、児童生徒の主体的・対話的な学びと個に応じた学びの推進につながった。 校長会議等で、適宜児童生徒のICT活用状況を共有し、学習における効果的な活用や情報モラルを大切にする共通実践により、児童生徒のICT利活用意識が向上した。 タブレットの活用については、より効果的な活用を促すために、まなびポケットやMEXCBT（メクビット：オンラインで学習ができる文部科学省のシステム）の研修を行い、児童生徒の主体的な学びの保障につながった。 市内にある全ての小・中学校が認定更新を行い、学校情報化認定優良校となった。
	課題及び今後の展開		タブレットを活用する際に落下させたり、引き出しに収納したりする際の破損が前年度より増えているため、校長会議等を通じて、タブレットの取扱い方法についての注意を呼びかけた。今後の取扱いについて、毎月の報告をもとに現状を分析し、各校に周知してタブレットを大切に扱う意識を高める指導につなげて改善を図る必要がある。 情報リーダー研修の中に、技能面だけでなく情報モラルに関する研修を取り入れていくとともに、今後、情報教育担当や教務主任だけでなく複数の教職員が参加できるICT利活用研修を開催していく。 児童生徒に影響する可能性がある視力低下（目への配慮）については、学校から保護者に対して保健だよりなどでの注意喚起を行うことで、学校だけでなく家庭での適切なデジタル機器利用等にもつなげる。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	学校情報化認定優良校の小・中学校数 日本教育工学協会(JAET)	校	10	91.0%	13	118.2%	13	118.2%	11	13
2	児童生徒一人当たりの月平均タブレット 通信量	GB	2.14	71.3%	1.75	58.3%	1.52	50.7%	3.00	3.00

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	タブレットの効果的な活用や授業改善も推進されており、情報教育担当者や教務主任を中心に、教職員の研修やOJTが活発に行われた。 児童生徒においては、タブレットを活用して協働的な学習ができているが、端末を大切に使うことや情報モラルに対する意識を高めること、家庭学習での効果的な活用を促していく必要がある。
------	----------	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	- 4 生涯スポーツの振興		
施策の目的	市民のニーズが多様化する中、それぞれのライフスタイルに応じたスポーツに親しむことができる環境づくりが求められている。また、スポーツ推進委員による地域スポーツの活動推進とスポーツ協会、やまが総合型スポーツクラブなどの関係団体の組織力強化と競技力向上のための支援を行い、市民の健康増進と生涯スポーツの普及を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】生涯スポーツ推進事業

取組内容	スポーツ推進委員が連携して、誰でも気軽に楽しめるユニバーサルスポーツの普及活動を行った。特に、フィンランド発祥のアウトドアスポーツ「モルック」や兵庫県丹波市発祥の「囲碁ボール」（碁盤に見立てた専用マットにパットゴルフの要領で行う五目ならべ）の体験会を実施した。 小学校運動部活動の社会体育移行に伴うアクティブチャイルドプログラム（ＡＣＰ）活動の希望があった小学校と放課後児童クラブへ、指導員を派遣して実施した。 地域で行う大会として鹿北地域と菊鹿地域で駅伝大会を実施した。	成 果	両競技とも地域単位で開催された体験会では、異世代混合のチーム編成にも関わらず、和やかで気軽に楽しめるスポーツとして普及活動ができた。また、囲碁ボールでは、スポーツ推進員が規格を縮小した用具を作成し、より啓発しやすい環境を整えた。 ＡＣＰについては、大道小学校で8回、放課後児童クラブ「クラブかわべっ子」で3回実施した。参加する子どもたちが回数を重ねるごとに、体の動かし方を習得し、身体機能の強化と体力向上の成果があった。 鹿北地域と菊鹿地域の各地区対抗駅伝大会で、出場までの練習など運動の習慣化に貢献できている。また、地域単位で実施することにより、地区コミュニティの醸成にも寄与することができた。
	課題及び今後の展開		小学校の部活動がなくなり、大人も日々の暮らしの中で運動する機会が少なくなっている現状から、日常生活にスポーツを浸透させ、ユニバーサルスポーツやＡＣＰを活用する必要があるため、スポーツ推進員やスポーツ組織・団体からの支援、指導を継続して推進していく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	%	-	-	-	-	-	-	65.0	65.0
2	スポーツ協会会員数	人	3,641	93.4%	3,642	93.4%	3,650	93.5%	3,900	3,900

スポーツ実施率の調査は、スポーツ推進計画策定前に行っており、令和4～6年度は実施していないため記載なし。（参考：令和2年度調査 スポーツ実施率 55%）

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B スポーツを「やってみる」という取組みとして、計画していた活動は実施できているものの、ＡＣＰについては学校運営（スクールバスの運行時間）との制約もあり、市内全域の小学校で広く行うことができなかった。また、ユニバーサルスポーツの啓発を進めるも、普及までつながっておらず、今後の課題である。
------	---

施策評価調査書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施策名	- 5 「ハンドボールの街やまが」の推進		
施策の目的	オムロンハンドボール部(現熊本ビューストピンディーズ)が本市に拠点を置き、オリンピックにも選手を輩出していることから、熊本ビューストピンディーズと連携した教室や大会を継続して開催し、競技力の向上やスポーツの推進を図り、他の競技にも波及する取組を展開していく。		

1 事業の取組状況

【事業名】スポーツ推進事業

取組内容	山鹿市で開催される日本ハンドボールリーグのホームゲームを市民に周知し、試合に多くの観戦者を集客することで、熊本ビューストピンディーズのファン獲得とハンドボール競技への魅力を発見する機会の増加に努めた。	成果	山鹿市でのホームゲーム開催の告知を、やまがメイトを活用して市民へ周知を行った。 また、熊本ビューストピンディーズと連携し、市民交流センターでの看板設置や観覧券配布などにより多くの集客に寄与した。 R5シーズン(観客総数4,293人、平均観客数716人) R6シーズン(観客総数5,349人、平均観客数669人)
課題及び今後の展開	熊本ビューストピンディーズのホームゲーム観客総数は年々増えているものの、試合ごとの集客数にばらつきが見られる。安定した集客を目指すため、ファンの拡大方法については、ファンクラブへの加入促進など、継続して取り組んでいく必要があり、周知方法についても検討していく。		

【アスリート育成事業】

取組内容	小学校対抗の親善大会開催を機に、熊本ビューストピンディーズと連携し、小学校授業の一環としてハンドボール教室を開催した。 また、ACPの指導者として熊本ビューストピンディーズの選手を起用して、運動能力の向上と併せて、ハンドボール競技の興味を持つ機会づくりに努めた。	成果	小学校の授業の一環として取り組むハンドボール教室に、熊本ビューストピンディーズの選手から延べ6回の直接指導を受ける機会を作ることにより、ピンディーズのファン獲得とハンドボール競技を知るきっかけづくりとなった。
課題及び今後の展開	小学校での部活動がなくなり、体力の低下が心配されている中で、子どもたちがハンドボールを体験する機会を通して、競技の一種として魅力を見出し、継続してやりたいスポーツへとつなげていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	ハンドボール競技人口	人	340	75.6%	340	75.6%	350	77.7%	450	450

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	小学校対抗のハンドボール親善大会を目指し、各小学校でハンドボール教室を開催することができた。また、指導に熊本ビューストピンディーズの現役選手が教えてくれることで、ハンドボール競技の普及・体力向上にもつながった。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	教育総務課
----------	-----	-------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	- 6 学校施設の整備・充実		
施策の目的	学校施設の老朽化対策は、令和2年度に策定した「山鹿市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・建替えを行いながら、安全安心で、かつ、質の高い教育環境の整備を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】安全・安心な学校づくり事業

取組内容	八幡小学校屋内運動場等の整備 校舎外壁及び外構工事を含め、令和4年度～6年度までの3年間で整備を行った。 令和4年度は、湧水排水工事や防球ネット設置工事、校舎棟の外壁改修工事、令和5年度は、屋内運動場の建設、令和6年度は、外構工事（渡り廊下・舗装・遊具設置）を行い、令和6年8月末に完成した。 学校施設長寿命化 老朽化の進む全ての中学校を対象として、建物の劣化度を調査する健全度調査を実施し、その結果も踏まえ、長寿命化計画に基づく小中学校の屋上防水工事及び外壁塗装工事を行い、建物の安全性確保を図った。 防犯カメラの設置 児童生徒の安全を確保するため、防犯カメラの設置を行った。	成 果	学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす活動の場であり、安全安心で快適な教育環境の整備が求められる。 このような中、老朽化した校舎棟の外壁改修及び屋内運動場の建て替え等を行うことにより、児童生徒に学びやすい教育環境を提供することができた。 コンクリート造りの建物は、ひび割れが増大するとその部分から空気・水分が侵入し中性化や鉄筋の錆の原因となり、劣化を進行させる大きな要因となることから、屋上防水、外壁塗装を行うことで、空気・水分の侵入を防ぎ、劣化を抑えることができた。 防犯カメラを設置することにより、不審者の侵入や犯罪の抑止効果を図り、児童生徒の安全な教育環境を確保することができた。
課題及び今後の展開	学校施設においては、昭和40～50年代に整備されたものが多く、老朽化が進み更新の時期を迎えている中で、優先順位を考慮しながら、計画的な施設整備を図る必要がある。 また、防犯カメラの設置については、令和7年度に中学校の設置を行い、小中学校全ての設置完了を目指す。		

【事業名】学校施設環境改善事業

取組内容	校舎・屋内運動場のLED照明整備 SDGsが掲げる持続可能な社会と環境づくりの実現に向け、高効率のLEDは大きな省エネ効果とエコ効果を得られることから、現在使用中の蛍光灯などの照明器具をLED照明に交換整備し、環境負荷の低減と管理経費の節減を図った。	成 果	施設照明をLED化にすることにより、CO₂排出量の削減や経費の削減など環境負荷の低減と省エネ効果が期待できる。 また、学習環境の向上、健康な視力の助長及び視覚疲労の軽減につなげることができた。
課題及び今後の展開	学校のLED照明整備については、令和7年度において、未整備である中学校3校の交換整備を実施し、小中学校全ての照明整備完了を目指す。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	防犯カメラ設置校数 ()は累計数	校	0(3)	23.1%	3(6)	46.2%	2(8)	61.5%	13	13
2	校舎LED照明整備校数 ()は累計数	校	2(5)	38.5%	3(8)	61.5%	2(10)	76.9%	13	13

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 八幡小学校屋内運動場等の整備については、学校運営に長期の支障をきたすことになりながらも、令和4年度に着手し、令和5年度で屋内運動場建設、令和6年度で外構工事等を予定どおり完了することができた。 防犯カメラ設置及びLED照明整備については、令和6年度で13校全てを完了する予定であったが、緊急を要する老朽化対策工事が必要となり、その対応を優先したため一部は完了できなかった。
------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	ひと輝く	基本目標	確かな学力と健やかな体の育成
施 策 名	- 7 社会体育施設環境の充実		
施策の目的	本市の社会体育施設は、建築後耐用年数を経過した施設が多く、本体の老朽化や設備の経年劣化による維持管理費の増大が懸念されている。そのため、本市の個別施設計画に基づき、費用対効果や地域における施設配置の状況を検証しながら、カルチャースポーツセンターを核とした第3次社会資本整備計画を推進し、社会体育施設環境の充実を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】カルチャースポーツセンター長寿命化事業等

取組内容	カルチャースポーツセンターの長寿命化事業は、令和4年度に総合体育館及び野球場の主要部分の改修工事は終了したが、令和5年度に、映像・音響設備等更新工事、令和6年度に第2アリーナのLED化とWi-Fi設備設置を行った。	成 果	カルチャースポーツセンターの長寿命化事業は終了したが、音響等設備やLED化、Wi-Fi設置など設備の充実を図ることで、各種大会や合宿等開催時の利便性向上に寄与することができた。
	施設の老朽化や利用状況に鑑み、深瀬健康増進施設とサイクリングターミナルの解体整備を実施した。		老朽化施設の改廃を図ることで、倒壊や火災の危険性を排除し、周辺住民への安全確保及び維持管理の効率化につながった。
課題及び今後の展開		建築年数が古い社会体育施設を多く抱えており、改廃を含めた維持管理が課題となっている。そのため、既存施設の改修・整備を継続的に進め、施設利用者のニーズに対応していく一方で、施設の老朽化や利用状況等を踏まえ、地元の意向を考慮しながら改廃について今後の取扱いを検討していく。	

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	社会体育施設利用者	人	281,514	64.0%	356,829	81.1%	344,785	78.4%	440,000	440,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	成果指標において前年比が減少しているのは、カルチャースポーツセンター第2アリーナのLED化工事による使用停止期間が影響したものと推測されるものの、新型コロナウイルスが5類感染症移行後、各社会体育施設の利用者数は増加傾向にあり、カルチャースポーツセンターをはじめとした施設の設備を充実したことで、利用者の安全で快適な利用につながった また、老朽化施設の改廃を行うことで、安全性の確保及び施設維持の効率化が図れた。
------	---	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
		文化課

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施 策 名	- 1 子どもたちの郷土愛と誇りを育む		
施策の目的	ふるさと山鹿を愛し誇りに思う、将来の山鹿を担う人材を育成することを目的とする。		

1 事業の取組状況

【事業名】子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業

取組内容	立志の道事業 山鹿市が生んだ熊本県初の内閣総理大臣「清浦奎吾」が少年時代に通った大分県の私塾「咸宜園」までの道程を実際に辿る経験を通して「生きる力」「耐える力」の養成を図った。 山鹿・郷土かるた かるたを使って、楽しく遊びながら山鹿市の歴史や人物、豊かな自然や産物を知ってもらうよう、市内の小中学生が絵札と読み札を作成した「郷土かるた」を小学1年生、各地区公民館、幼稚園・保育園、放課後児童クラブ等に配布した。 「ふるさと山鹿の歴史探検バス（以下、歴史探検バス）」として、市内の小学6年生と中学1・2年生が各地の文化財や資料館をバスで巡った。見学場所、実施日、行程については学校側と調整のうえ決定し、希望見学場所の施設職員やガイド団体等に説明を依頼した。 令和3年度作成の「山鹿の歴史たんけん」リーフレットの配布や「ふるさと山鹿の歴史」学習コンテンツの紹介を行い、山鹿の歴史に関する学習への活用を促した。 事業実施の概要については、山鹿市のホームページで紹介した。	成 果	学校事業の一環として参加があった昨年に比べ、参加者数は30名と減少したが、訪問先の日田市では地元の小学5～6年生で構成された「日本遺産子どもガイド」と交流を図ったことで、「清浦伯」が学ばれた「咸宜園」や「清浦伯」についてより深く学ぶことができた。また、本事業に参加したことで、子どもたち自身が今後の学習面や生活面において志を立てる意義を感じることができた。 山鹿・郷土かるたの活用として、11月にこもれび図書館主催で「やまが郷土かるた大会」が行われ、児童19人の参加があった。1月には、市文化協会主催の小学2年生を対象にした「やまが郷土かるた大会」が菊鹿町のひまわり館で開催され、児童38人の参加があり、郷土を学ぶ機会となった。 本市の小・中学生が、市内各所に残る豊富な歴史文化遺産の見学を通じて、ふるさと山鹿の文化・文化財や先人の業績について知り、その価値に気づくことができた。 歴史探検バスは、市内の全ての小学6年生446名と中学1・2年生378名の合計824名が参加した。 生徒のアンケートには「チブサン古墳のように、今でも残っていることがすごい。他の地域の人にも知ってほしい。」（鹿本中2年生）、「豊前街道は何のために作られたのかは知っていたけれど実際に歩いてみて昔の感じが左右に立っている建物から感じとれた。」（菊鹿中1年生）という感想があった。
	課題及び今後の展開 「清浦伯」の教えや生き方を体験を通じて学ぶことで、「生きる力」「耐える力」の養成を図ることを目的にしていることから、今後も「清浦奎吾顕彰会」などと連携を深めていくことで目的に沿いながら事業を推進していく。 山鹿・郷土かるたは、現在活用している小学校、文化協会、図書館に加え、幼稚園や保育園、公民館、放課後子ども教室などへの周知に努め、さらなる児童の利用促進を図る。 歴史探検バスについては、参加した小学校から「説明だけで時間がなくなり、児童が見学できる時間が少なかった」との意見があった。今後は説明者と時間配分を調整し、人数と場所の状況を考慮しながら参加者の満足度向上に向けた改善を図る。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	立志の道の参加者数	人	-	-	80	160.0%	30	60.0%	50	50
2	歴史探検バス参加者の満足度	%	77.8	97.3%	87.5	109.4%	91.0	113.8%	80.0	90.0

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 立志の道事業の参加者は前年と比較し減少したものの、清浦伯が学んだ咸宜園を実際に訪問し、地元小学生による「日本遺産子どもガイド」の説明を聞くことを通じて、志を立てる意義を感じることができた。今後は、児童が参加しやすい日程や内容について引き続き検討を行い実施していく。 また、山鹿・郷土かるたについては、地域への理解を深め郷土愛を育むことを目的に、市文化協会などによるかるた大会を実施したが、更なる利活用促進に向けた対策が必要であると考えている。 一方で、歴史探検バスの満足度調査では、高い評価を受け、参加した児童も地域の歴史や文化財などを知る機会となり、ふるさと山鹿を愛し誇りに思う人材育成につながっている。
------	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施 策 名	- 2 文化財の保存と活用		
施策の目的	重要文化財に指定されている八千代座の適切な保存管理及び、文化・観光振興に資する活用のため計画的な整備を実施する。また、本市の各地区に残された多数の貴重な文化財について、保存と活用を両立することにより、次世代へと保存の流れをつなげていく。		

1 事業の取組状況

【事業名】文化財保存・活用事業

取組内容	方保田東原遺跡公園を会場としたイベントとして「ヒマワリ畑でクイズラリー」「ランタンフェスティバル」を開催した。また、鞠智城国営公園設置促進期成会への補助等を通じて、文化財を活用した事業を展開した。 遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の範囲内での土木工事等に先立ち、届出に基づき試掘・確認調査や発掘調査を実施した。	成 果	文化財をテーマとしたイベントを開催して、多数の参加があった。また、これらのイベントについて報道や市ホームページ等で広報に努めたことにより、本市の文化財についての情報を広く発信することができた。 開発業者に対して手続きを周知していることから、提出書類など工事等に先立つ処理を適切に実施することができた。
課題及び今後の展開	方保田東原遺跡について、将来的な整備のため総合報告書の作成や保存管理計画の見直し等の取組を進める必要がある。 国特別天然記念物に指定されている相良のアイラトビカズラについて、周辺のタケ繁茂や柵の老朽化などの課題があるため、計画的なタケ伐採や柵の更新など、適切に管理していく必要がある。		

【事業名】八千代座保存活用整備事業

取組内容	八千代座の保存整備工事に向け、文化庁調査官と現地協議を行い課題を抽出した。 また、老朽化した設備（誘導灯、エアコン、消防設備）の改修を実施した。	成 果	保存整備工事に向け、文化庁の担当調査官と問題点の共通認識をもつことができた。また、老朽設備の更新により、適切な管理を図ることができた。
課題及び今後の展開	八千代座は、文化財であると同時に市民や観光客が活用する公演の場でもあることから、適切な維持補修を行う必要がある。老朽化した防火設備等の改修を進めることにより、適切に保存していくことはもとより、より充実した活用に向けた取り組みを進めていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	指定文化財等の見学者(八千代座、チブサン古墳、康平寺、出土センター、清浦記念館)	人	32,770	56.0%	34,152	58.4%	51,886	88.7%	58,500	40,000
2	文化財を活かしたイベント等の参加者	人	1,993	92.7%	2,544	118.3%	3,923	182.5%	2,150	2,600
3	八千代座の施設利用者・見学者数	人	60,878	75.2%	55,075	68.0%	67,515	83.4%	81,000	58,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	A	八千代座の保存整備に向けた文化庁との共通認識をもつことができ、施設の管理面においても適正な改善を図ることができた。 市内各地の文化財については、適切な保存を図りながらイベント等を開催し、テーマや対象者を工夫することにより多くの参加者があり、その価値や魅力を広く発信することができた。 また、清浦奎吾伯 総理大臣就任100周年記念事業として、国連事務次長の中満泉氏講演会を開催したところ多くの参加があり、清浦伯の功績を広くたたえることができた。
------	---	--

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	「ふるさと山鹿」に関心を持ち、探求する学びの推進
施 策 名	- 3 博物館展示等の充実		
施策の目的	郷土の歴史資料等について調査・研究、保存・保管、展示することにより、市全域の歴史や文化、文化財等に接することを目的とする。このためテーマ別の展示活動や講座等を推進するなど、市民に親しまれ子どもたちが集う博物館を目指す。		

1 事業の取組状況

【事業名】博物館展示事業

取組内容	名称、期間	成果	入館者・参加者数
	夏季企画展「やまがの昔ばなしと伝説」展 R6.7.20～9.29		山鹿の歴史や風土・方言を今に伝える昔話や伝説を紹介し、歴史的な特性や方言を知ってもらうことができた。824人
	秋～冬季企画展「絵図・地図で見る山鹿」展 R6.11.9～R7.2.24		江戸時代以降に作られた様々な絵図や地図を集め、そこに描かれた山鹿の姿を振り返ることができた。1,210人
	まちなか博物館「山鹿の偉人」展 R7.2.21～3.2（八千代座交流施設）		合併20周年記念として山鹿の偉人たちを紹介したことで、将来の山鹿の発展について考える機会をつくることができた。434人
	博物館ワークショップ（夏、冬、春） (1)昔ばなしの読み聞かせ R6.8.3 (2)怪談と肝試し R6.8.13 (3)夏の星空観察会 R6.8.24 (4)冬の星空観察会 R6.12.7 (5)勾玉づくり R7.3.20		企画展と関連した内容のワークショップ等の体験で理解を深めてもらうことができた。 (1)4人 (2)50人 (3)11人 (4)12人 (5)13人
	その他 ・木村ピアノミニコンサート R6.10.12		木村ピアノ制作100年を記念に、市民が手づくりで開催したミニコンサートで、古の音色を楽しむことができた。
	博物館研修講座 ・初心者陶芸教室		博物館の陶芸施設を活用して陶芸に親しむ機会を設けることができた。受講生12人、年間24回。
	自主講座 (1)竹細工自主講座（土曜班） (2)竹細工自主講座（日曜班） (3)古文書自主講座（R6.10.19で終了） (4)古文書自主講座（山鹿古文書の会） (5)拓本自主講座		受講生の自主的講座として左記内容で開催され、会場提供など活動をサポートできた。 (1)受講生23人、年間24回（以下同じ） (2)14人、24回 (3)5人、13回 (4)15人、24回 (5)10人、12回
課題及び今後の展開		博物館は開館から45年以上が経過するため、老朽化が進行しているほかバリアフリー対応、収蔵庫の容量不足など施設面での課題がある。改修に向け整備方針に関して庁内意見の取りまとめを進める。 参加者の満足度を向上させるため、企画展や関連イベントの内容を充実させる。また、市内小中学生を対象とした「ふるさと山鹿の歴史探検バス」の実施などにより、学校教育や社会教育との連携を図る。	

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	博物館入館者数	人	4,418	76.2%	4,271	73.6%	4,114	70.9%	5,800	5,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	企画展のテーマとして、本市に伝わる「昔ばなしと伝説展」、「地図・絵図展」及び「山鹿の偉人展」などを予定どおり開催できた。また、入館者・参加者数が思うように伸びなかったものの、関連イベントを開催し、本市の文化や歴史の価値について市内外に広く周知・発信することができた。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施 策 名	- 4 生涯学習の推進		
施策の目的	市民や地域のニーズを反映した各種講座を通して「生きがいづくり」や「地域づくり」につながる支援を行う。		

1 事業の取組状況

【事業名】生涯教育推進事業

取組内容	生涯大学講座（市主催） 60歳以上の市民を対象にした生涯大学講座は、音楽や食生活による「健康」に関すること、防災や交通マナーなどの「安心安全な暮らし」に関すること、方保田東原遺跡や鞠智城などの「山鹿の歴史文化」に関することなどを、講演や現地研修を通して知識を高め、受講者同士の交流を深めることで、地域づくりにつなげることを目的に実施した。 生涯学習講座（市主催） 生涯学習講座は、大学教授や地域で活躍している方などを講師に「聞いてとくする」「歴史探訪」「健康づくり」「園芸」「英語で遊ぼう」の5コースを設けて、受講生が興味を持ち楽しく受講できるよう実施した。 自主講座 初心者向けの学習を基本とした自主講座は、「水墨画講座」「革工芸講座」「健康ヨガ講座」「俳句講座」など受講生自らが運営を行った。また、自主性と意欲を高めるために、講座の成果発表会の支援を行った。	成 果	高齢者の生活に密接な関わりがある講座を実施できたことで、受講生からは高評価だった。また、講座を通して学んだ知識や技術を日常生活に活かすことができ、「講座を受けて本当に良かった。」という感想も多く多くの受講生から届いている。現地研修は、最も人気があり、好評で継続希望が多い。令和6年度は延べ2,221人が受講した。（受講生287人） 様々なジャンルの講座を開催することで、それぞれの受講生が興味がある講座を受講することができ、高評価だった。特に「聞いてとくする」「歴史探訪」の現地研修は、「来年も参加したい」という感想も多く見受けられた。令和6年度は延べ468人が受講した。（受講生121人） 受講生自ら講座の運営を行い、一年を通して活発な活動ができた。また、講座の成果発表会である「市民のつどい」では、会議やリハーサル、発表等において支援を行ったが、発表会ではそれぞれの講座の一年間の素晴らしい成果を見ることができた。「市民のつどい」は貴重な発表の機会であることから、継続希望が多数である。令和6年度の講座数は57講座であった。（受講生769人）
	課題及び今後の展開		受講者数の減少、高齢化による会場までの交通手段の確保、受講生が楽しく興味を持てる講座メニューの選定などの課題がある。また、例年継続的な受講生が多く、新規の受講生及び若い世代の参加が少ない状況であるため、他市町村の講座を参考に魅力ある講座の開催を考えていく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
	1									
	各種講座受講生数	人	1,296	87.9%	1,284	87.1%	1,177	80%	1,475	1475

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	各講座の受講者の満足度は高いものの、受講生数は減少傾向にあり、諸所の課題もあるため、今後もよりよい講座となるよう工夫しながら改善に努めていく。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	文化課
----------	-----	-----

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施 策 名	- 5 文化団体の育成支援		
施策の目的	芸術文化には音楽や演劇、舞踏などの種類があり、そのいずれもが演ずる人や鑑賞する人々に感動や生きる喜びを与えて人生を豊かにするほか、地域社会全体の活性化にも大きく寄与する。このため文化団体間の連携・強化や、郷土芸能団体の活動支援を図ることにより、文化芸術活動の継続や民俗芸能の保存・継承を目指す。		

1 事業の取組状況

【事業名】文化団体育成支援事業

取組内容	市内の神楽や雨乞い踊りをはじめとする民俗芸能団体に対して資金面から支援するため、補助金を交付した。 令和6年10月27日、会場を市民交流センターに移し第32回鹿北茶山唄全国大会を開催した。全国大会についても補助金を交付するほか、鹿北市民センターとともに運営の支援を行い、市全体の宝として周知及び活動振興を図った。 市内の芸術文化団体に対して資金面の支援として補助金を交付した。併せて芸術文化祭における会場設営や撤去など運営面においても開催の応援を行い、文化芸術活動の発展を図った。 市内に継承されている無形民俗文化財等の撮影を行い、記録保存として各団体の保存継承活動に役立てる。	成 果	活動団体への補助金については、市内8団体より申請があり、運営を資金面からサポートすることにより、民俗芸能の保存・継承に寄与した。 全国大会については県内外から160人の申し込み（141人の出場）があり、出場者には会場を移したことにより、文化ホールのステージに立つことで音響の違いも含め満足度の高いものとなった。また、市指定無形文化財である「鹿北茶山唄」を市内外に広く普及啓発するとともに、鹿北茶業の振興、PRに寄与した。 文化協会の会員数は昨年度に比べて29名の増となった。芸術文化祭については、ほぼコロナ禍前の規模で開催され、参加者は630名、入場者数は2,080名であった。 令和6年度から伝統芸能映像記録の撮影を始め、「宗方万行」「麻生野神楽」「迫の雨乞い踊り」の映像記録を作成した。
	課題及び今後の展開		文化協会の会員数維持に関しては、高齢化が進み新規加入が少ない状況にあるため、引き続き協会との検討を重ね、活動の支援を行いながら団体の活性化と会員増加を図っていく。 民俗芸能の保存及び存続についても高齢化が進む中、会員数はわずかに増加しているものの、コロナ禍の影響から活動の実施が止まっている団体もあり、保存継承活動が困難な状況である。映像記録の保存も進めながら、後継者の育成及び活動継続に取り組んでいく。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	文化協会会員数	人	611	76.4%	604	75.5%	633	79.1%	800	650
2	民俗芸能会員数	人	321	80.3%	311	77.8%	359	89.8%	400	320

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B 文化協会、民俗芸能ともに目標の会員数に届かなかったものの、それぞれ協会会員の周知や勧誘活動及び維持継承活動の取組により、会員数の増加につなげることができた。 また、文化団体の育成については、資金面や運営面において支援を行うことにより、それぞれに成果を上げ、文化の振興、発展に資することができた。
------	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
	みらい彩る		豊かなコミュニケーション能力の育成
施 策 名	- 6 読書活動の推進		
施策の目的	乳幼児から高齢者まで全ての世代が読書に親しみ、感性を磨き、知識を高め、思考力やコミュニケーション力の向上につながる読書活動のための環境を整備する。 また、様々なニーズに対応できる図書の充実を図り、特徴ある図書館・図書室を整備する。		

1 事業の取組状況

【事業名】夢の「とびら」をひらく事業

取組内容	乳幼児から読書に親しむ環境をつくるため、3・4ヶ月健診及び1歳6か月健診時に、絵本のプレゼントや読み聞かせを行うブックスタート事業（1）及びブックスタート・プラス事業（2）を行った。 （1）ブックスタート事業・・・3・4ヶ月健診の会場で2冊の絵本をプレゼント （2）ブックスタート・プラス事業・・・1歳6か月健診の会場で3冊の絵本から1冊を選んでプレゼント 移動図書館を運行し、保育施設、高齢者施設等での図書の貸し出しを行った。 気軽に図書館に来館していただけるよう、ひだまり図書館・こもれび図書館にて上映会イベントを開催した。	成果	3・4ヶ月健診（ブックスタート事業）では206人の参加があり、一人2冊計412冊を配布した。1歳6か月健診（ブックスタート・プラス事業）では、241人の参加者に一人1冊を配布し読み聞かせを行い、親子で読書を楽しむきっかけとなった。 移動図書館を保育園、幼稚園、小学校、郵便局等の施設65か所で運行し、気軽に読書活動を楽しめる機会を作った。 子ども向けや高齢者向けなど、様々な年代の方を対象とした上映会イベントを両館で実施したことにより、図書館へ来館するきっかけの場を作った。
	課題及び今後の展開		利用者数の増加につなげるために、昨年度導入した図書館アプリの活用周知を行い、より利用しやすい図書館を目指す。また、利便性向上の点からGW期間の臨時開館についても、引き続き実施していく。 電子図書館導入に向けても検討を進め、いつでもどこでも利用可能な電子図書館の利点を活かし、新規利用者獲得を目指す。

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	公立図書館・図書室利用者延べ人数	人	66,908	83.6%	66,933	83.7%	64,468	80.5%	80,000	80,000
2	図書館・図書室個人貸出数	冊	262,019	81.9%	253,119	79.1%	235,109	73.4%	320,000	320,000

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B	各種の取組を行いながらサービスの向上に努めてきたが、図書館利用者数及び個人貸出数はコロナ禍以降減少傾向にある。利用者を増やすためのイベントの開催、広報やホームページ、やまがメイト等を利用した情報発信を充実させ、市民のニーズに応じた新刊図書の購入による読書活動の満足度向上と利用者の拡大につなげていく必要がある。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	きずな結ぶ	基本目標	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の充実
施 策 名	- 7 公民館活動の推進		
施策の目的	公民館活動を通して地域の活性化を推進するための支援を行う。地区公民館の活動を支援し、地域コミュニティの維持・存続を図る。 また、自治公民館の改修補助、地区公民館の長寿命化事業による活動拠点の整備を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】地域学校協働活動事業

取組内容	12地区の公民館指導員が、市内小・中学校と地域との橋渡し役として地域学校協働活動推進員を兼務し、地域住民と学校（小・中学生）が相互に、学校行事、地域行事などの支援協力活動を行うことで、地域で子どもの成長を支えとともに、地域が活性化する活動を推進した。	成 果	地域住民等が参加して行う地域学校協働活動の小・中学校の協力では、「登下校の見守り」「家庭科授業のサポート」「朝の読み聞かせ活動」「交通安全教室」などがあり、小・中学生が参加しての地域への協力事業として「地域の祭り」「農作業体験」「地域の伝統芸能の継承活動」「花壇の花苗植え」などがある。 地域、学校、児童生徒、保護者、行政の5者連携により、地域と学校の活性化につながった。 その成果が認められ、令和6年度に鹿北小・中学校学校運営協議会と鹿北町地域学校協働本部が文部科学大臣表彰を受賞した。
課題及び今後の展開	学校再編により、小・中学校が無い地域や規模の大きい中学校区における全小学校を対象とした協働活動の対応が課題となっている。そのため、小中学校と地域の橋渡し役を各地区公民館の地域学校協働活動推進員が担い、協働活動のさらなる充実を目指す。		

【事業名】地区公民館地域づくり講座事業

取組内容	12地区公民館が地域にあった講座を開催し、地域の自然や文化を再確認し、地域の特色を生かし地域づくり・人づくりを推進した。	成 果	9地区の公民館において指導員が中心となり、「祭りを企画する」「犬子ひょうたんづくり」「子供チャレンジ教室」「認知症対策」「郷土料理教室」「ノルディックウォーキング」など地域の特色を活かした11講座を開催（延べ716人の参加）し、地域づくり・人づくりにつながった。
課題及び今後の展開	令和6年度は9地区公民館での取組となったが、地域の特色を生かし地域づくり・人づくりを推進するために12地区全てがこの事業を開催できるよう、地区公民館会議の際に、他の地区の取組状況の紹介等を行い、事業の実施及び地域コミュニティの活性化を推進する。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
	地区公民館利用者数	人	80,218	124.8%	88,252	137.3%	84,157	130.9%	64,300	88,300

3 総合評価と評価の理由

総合評価	A	八幡地区公民館が改修工事により7月から3月まで閉館したこともあり、令和5年度と比較すると利用者は約4千人の減少であった。ただし、達成率は130.9%と高く、12地区のそれぞれの地区公民館で、公民館事業や地域学校協働活動事業が活発に行われており、地域の振興、高齢者の生きがいづくり、子どもたちの健やかな成長につながった。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
----------	-----	------------

基本方針	みらい彩る	基本目標	社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成 SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた行動を起こす力の育成
施 策 名	- 1 山鹿創生塾		
施策の目的	これまでの長い歴史に培われた伝統や文化、市民の気質等を礎にして、活力あふれる“ふるさと山鹿”を築くとともに、市民の夢と希望を形にする「山鹿創生」を実現するため、山鹿を元気にし、将来の山鹿を担う人材の育成を目指す。		

1 事業の取組状況

【事業名】山鹿創生塾事業

取組内容	山鹿市内の中高生を対象に、自分のスマートフォンなどを使い、グループで「山鹿市のPR」という大枠の中で内容を決め、動画を制作（撮影、編集）する体験講座を開催した。 座学による講座を2回、撮影・編集1回、発表会1回の合計4回の講座を開催し、その結果3本の動画が完成した。 講師は、会社設立から5年間で200本以上を超える映像作品を制作してきた映像クリエイターと、山鹿創生塾委託企業のスタッフが担い、動画制作にあたっての着眼点や構成案作成方法のほか撮影・編集方法についての説明があった。 作成する動画の対象（店舗や観光スポットなど）については、撮影スケジュールの関係上、豊前街道周辺とした。 完成した動画は山鹿市のYouTubeチャンネルで公開し、山鹿創生塾の内容を山鹿市のホームページで公開した。	成 果	参加者は山鹿市内在住の中学1年生～2年生と高校2年生で合計15名が参加した。受講生の満足度は100%であり、全ての受講生にとって有意義な内容となった。 受講生からは、「山鹿の魅力を伝えるというテーマで、班のみんなと楽しみながら協力して撮影・編集ができた」、「動画撮影の知識や、構成づくり、本質についてわかり、本当に貴重な時間だった」などという感想があり、動画制作の方法を詳しく学べ、楽しく撮影もできたことが窺えた。 動画制作についての知識や技術を得るとともに、山鹿市の良さを見つめ直し、郷土愛を養う貴重な機会となった。
課題及び今後の展開	受講生が今後の山鹿創生塾に期待することは、動画制作のほか、イラストが活用できる内容や参加者同士がコミュニケーションをとることができる内容をとの声が上がっている。意見を参考に、内容を改善し、次年度も満足度が高い山鹿創生塾を開催していく。 なお、開催日がテスト期間や卒業式シーズンと重なり、受講生募集に苦慮したため、募集時期や募集方法について受講生や学校の先生から聴取した意見をもとに改善を図っていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指標名	単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
			実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
1	山鹿創生塾参加者の満足度	%	98.8%	123.5%	76.9%	96.1%	100.0%	125.0%	80.0	80.0

3 総合評価と評価の理由

総合評価	A	募集には苦慮したところであるが、受講生の満足度が100%を達成することができた。 これは、動画制作のプロである講師による講演や班ごとにコミュニケーションを取る機会を多く設け、内容の充実を図ることができたためだと考えられる。
------	---	---

施 策 評 価 調 書

担当 部課	教育部	生涯学習・スポーツ課
		学校教育課

基本方針	みらい彩る	基本目標	豊かなコミュニケーション能力の育成
施 策 名	- 2 国際理解教育の充実		
施策の目的	○グローバル化に対応する人材育成のため、青少年等に国際交流の機会を提供する。 ○高齢者が英会話を学ぶことで「生きがいづくり」や「地域づくり」につながる国際交流を目指す。 ○令和2年度から小学校5・6年生で外国語が正式に教科となり、小学校3・4年生では外国語活動が導入されたことを踏まえ、学習環境を整備し、小中学校における外国語教育の充実を図る。		

1 事業の取組状況

【事業名】国際交流事業

取組内容	姉妹都市であるオーストラリアのクーマとの派遣団交流は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止が続いており、令和5年度もモナロ高校生とのオンライン交流事業とALT作成によるプログラムを実施した。市内小学5年生～中学生を対象に募集を行い、8月に24名が参加した。	成果	派遣交流事業は中止が続いているが、オンラインによる交流では海外の同年代の学生と英語で会話する貴重な経験となった。また、ALTによる英語を使ったプログラムを通じて、楽しく英語に触れる機会となった。
課題及び今後の展開	オンライン交流事業を継続するとともに、派遣交流事業については民間主導等その手法、在り方について検討していく。		

【事業名】生涯教育推進事業

取組内容	生涯学習講座の1コースとして、ALTによる英会話講座を行い、小学生から80代までの受講生12名が参加した。	成果	全5回の講座を通して、ALTだけではなく、受講生同士の交流も図ることができた。受講生からも「英語を使ってコミュニケーションが取れる貴重な機会だった」と高評価で、講座の継続を望む声が多い。
課題及び今後の展開	講座を引き続き実施し、若い世代の方の参加が少ないため、幅広い年代で参加できる方法を検討していく。		

【事業名】外国語指導事業

取組内容	ALT10名を小中学校へ配置し、外国人講師が児童生徒と直接関わることにより、異文化理解や外国語に対する興味・関心を高め、実践的な言語活動を通して英語力向上に努めた。 英語担当教職員の指導力の向上を図るため、実践交流会を開催した。 希望受験であった英語検定試験から、スコア型の外部英語能力テストをGTEC(1)に変え、中学3年生全員が授業中に受験することで、より客観的で正確な評価を出せるようにした。また、受験者の受験費を全額補助した。 GTEC(1)・・・ジーテック。小学生から社会人までの方が英語力を測定できるスコア型英語4技能検定	成果	諸調査において、「英語が好きである」と肯定的に答えている児童生徒の割合は、昨年度同様に県平均よりも高い状況が続いている。 「英語授業づくりプロジェクトリーダー（小・中学校各2名）」が中心となって、山鹿市内の小中学校の担当者に研修を実施することで、本市の英語教育の課題を明確にした授業改善につなげることができた。 中学校では、県学力調査の結果が県平均とほぼ同じであった。外部英語能力テストGTECについて、CEFR(2)のA1レベルの中学3年生が継続して高い状況であった。 CEFR(2)：セファール。外国語の習熟度や運用能力を測る国際的指標。外国語の4技能（読む、聞く、書く、話す）の習熟度及び運用能力を「A1」「A2」「B1」「B2」「C1」「C2」の6段階で評価。
課題及び今後の展開	小学校における英語に対する学びや児童の意識は高い状況が続いているが、中学校における学力調査等の状況は下降傾向にある。本市の課題でもある「読む」「書く」活動についての指導方法をさらに研究し、円滑な小中の接続とともに、ALTの効果的な活用や英語に親しむ機会を増やすなど、小中ともに英語好きを増やす取組を進めていく。		

2 教育振興基本計画に掲げた目標に係る達成状況

成果指標	指 標 名		単位	R 4		R 5		R 6		目標値	
				実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	実績値	達成率 /	R 6	R 7
	1	熊本市学力学習状況調査平均正解率を上回る学校（学年）の割合（英語）	%	80.0	87.0%	70.0	76.1%	60.0	65.2%	92.0	92.0
	2	CEFR A1レベル（英検3級相当）の中学校3年生取得率	%	29.9	85.4%					35.0	
		英語検定	%			81.1	101.4%	79.3	99.1%	80.0	82.0
		GTEC	%								

令和5年度から3年生全員が受験、4技能の習熟度が分かる検定方法（GTEC）に変更したため、目標値を新たに設定。

3 総合評価と評価の理由

総合評価	B オンライン交流や生涯学習講座を実施することにより、青少年から高齢者までの幅広い年代を対象に国際交流の場を確保し、英語に触れる機会を提供することができた。 熊本市学力学習状況調査で平均正解率を上回る学校の割合は10%下がった。令和5年度から導入したGTECでは、令和5年度より微減であるが、80%弱の高さを継続している。今後も4領域（読むこと、書くこと、話すこと、聞くこと）のバランスの取れた力を付けるために、小中の連携を検討し、英語への関心意欲を高め、英語に慣れ親しみ、活用できる児童生徒の育成を目指す。
------	--

4 教育委員会の主な活動状況

(1) 教育委員会会議

教育委員会会議には原則として毎月開催される「定例会」と、必要に応じて開催される「臨時会」があり、令和6年度は定例会12回、臨時会3回を開催し、教育行政の基本方針・施策等について協議・議決を行いました。

種別	開催日	主な議案等
臨時会	令和 6 年 4 月 日	自己紹介
定例会	令和 6 年 4 月 2 2 日	教育委員会が委嘱する委員等
定例会	令和 6 年 5 月 2 1 日	6 月補正予算 / 例規等の改正等 / 教育委員会 が委嘱する委員等
定例会	令和 6 年 6 月 2 7 日	6 月定例会 / 教育委員会が委嘱する委員等 / 教育委員会の事務に関する点検評価報告
定例会	令和 6 年 7 月 2 5 日	例規等の制定 / 教育委員会が委嘱する委員等
定例会	令和 6 年 8 月 2 1 日	例規等の改正及び制定等 / 教育委員会の事務 に関する点検評価報告
臨時会	令和 6 年 9 月 7 日	管内教諭について
定例会	令和 6 年 9 月 2 6 日	9 月定例会 / 立志の道事業
定例会	令和 6 年 1 0 月 2 3 日	文化芸術推進計画 / 夢プロジェクト
定例会	令和 6 年 1 1 月 2 1 日	1 2 月補正予算 / 財産の取得 / 中学校部活動 地域移行
定例会	令和 6 年 1 2 月 2 4 日	1 2 月定例会 / 中学校部活動地域移行 / 教育 振興基本計画改定 / 二十歳のつどい
定例会	令和 7 年 1 月 2 1 日	文化芸術推進計画 / 青少年健全育成大会 / 山 鹿創生塾 / 中学校部活動地域移行
定例会	令和 7 年 2 月 2 7 日	3 月補正予算 / 当初予算重点事業 / 教育振興 基本計画改定
臨時会	令和 7 年 2 月 2 2 日	教職員人事
定例会	令和 7 年 3 月 2 5 日	3 月定例会 / 文化芸術推進計画

(2) 総合教育会議

総合教育会議は、市長と教育委員会が教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置などについて協議・調整を行う場で、令和6年度は2回開催しました。

	開催日	協議事項等
第1回	令和6年10月23日	教育大綱・教育振興基本計画の策定について 宮古島市との交流について
第2回	令和7年2月27日	不登校対策事業について 幼児期からの英語教育の推進について

(3) 学校訪問の実施状況

山鹿市教育委員会学校教育指導の重点を踏まえた学校教育目標・努力点の具体的実践状況を把握し、その推進を図るとともに、各学校の学校経営や教育指導の支援に資するため、教育委員、事務局職員及び教科研究員等で学校を訪問しています。

令和6年度は、13校全ての学校への訪問を実施し、指導・助言を行っています。

(4) その他の活動状況

(学校関係)

- ・山鹿市立小中学校の入学式、卒業式、運動会、体育大会等
- ・小中学校あいさつ運動（毎月2回）
- ・園長・校長会議
- ・教科用図書選定調査委員会

(他教育機関の視察・研修等)

- ・熊本県都市教育長協議会
- ・熊本県市町村教育委員会連絡協議会定例会
- ・熊本県市町村教育委員会連絡協議会教育長部会
- ・熊本県市町村教育長会議
- ・熊本県市町村教育長研修大会
- ・熊本県市町村教育委員大会
- ・清浦圭吾伯総理大臣就任100周年記念事業（国連事務次長中満泉氏）講演会

5 教育委員会事務局の組織及び事務分掌

(1) 組織図（令和7年4月1日現在）

教育委員会	教育部	教育総務課	総務企画係
			教育施設係
		学校教育課	学務係
			教育支援係
			幼稚園（山鹿）
			小学校（山鹿、八幡、三玉、大道、鹿北、菊鹿、鹿本、めのだけ）
			中学校（山鹿、鹿北、菊鹿、鹿本、米野岳）
			給食センター（菊鹿、鹿本）
		学校教育指導室	
		生涯学習・スポーツ課	生涯学習係
			スポーツ振興係
		文化課	文化企画係
			文化財係
		博物館	

(2) 事務分掌

課	係	事務分掌
教育総務課	総務企画係	(1) 教育に関する総合的な政策の企画調整及び広報に関すること (2) 教育委員会の会議に関すること。 (3) 例規に関すること。 (4) 教育行政に係る相談に関すること。 (5) 栄典及び表彰に関すること。 (6) 学生及び生徒の奨学に関すること。 (7) 事務局の庶務に関すること。
	教育施設係	(1) 市立学校、幼稚園及び給食センターの施設の整備及び補修に関すること。 (2) 学校用地の取得に関すること。 (3) 前2号に掲げるもののほか、学校施設に関すること。
学校教育課	学務係	(1) 学校給食に関すること。 (2) 学校の予算に関すること。 (3) 学校保健に関すること。 (4) 学校教育用品に関すること。 (5) 幼稚園の管理及び運営に関すること。

	教育支援係	(1)通学区域に関すること。 (2)遠距離通学の対策に関すること。 (3)学校安全に関すること。 (4)学校教育における情報通信技術の活用に関すること。
学校教育指導室		(1)教科用図書の採択に関すること。 (2)教育課程の編成に関すること。 (3)教職員の人事、服務及び給与に関すること。 (4)教職員の資質の保持及び向上に関すること。 (5)就学に関し必要な指導及び助言に関すること。 (6)児童及び生徒の就学に関すること。 (7)学級編制に関すること。 (8)市立学校との連絡調整に関すること。
生涯学習 ・スポーツ 課	生涯学習係	(1)市立社会教育施設に関すること。 (2)青少年の健全な育成に関すること。 (3)家庭教育の支援に関すること。 (4)国際姉妹都市交流事業に関すること。 (5)生涯学習の推進に関すること。 (6)社会教育委員に関すること。 (7)社会教育に関する活動を行う者に対する指導及び助言に関すること。 (8)学校教育と社会教育の連携に関すること。 (9)その他社会教育の振興に関すること。
	スポーツ振興係	(1)市立社会体育施設に関すること。 (2)社会体育の振興のための学校施設の開放に関すること。 (3)スポーツの振興に関すること。 (4)スポーツ大会の誘致に関すること。 (5)スポーツ推進委員に関すること。 (6)社会体育に関する活動を行う者に対する指導及び助言に関すること。 (7)体力の保持及び増進に関すること。
文化課	文化企画係	(1)文化及び芸術の振興に関すること。 (2)八千代座その他の市立文化施設に関すること。 (3)文化に関する展示会その他の催しに関すること。 (4)鞠智城の国営公園化の推進に関すること。
	文化財係	(1)文化財の保存及び活用に関すること。 (2)文化財の調査に関すること。 (3)市立博物館に関すること。